

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>

CONTENTS

- 01 ■ 中村 宗一郎学長ごあいさつ、イクボス・温か（あったか）ボス宣言
- 02 ■ 令和3年度男女共同参画推進研修開催報告
- 03 ■ イクボス・温か（あったか）ボス宣言 更新
■【新企画】PickUp INTERVIEW 信大で活躍中の女性教職員
- 04 ■ NEWS&TOPICS ■ おひさま保育園 NEWS ■ 子育てコラムリレー

真の共生社会実現のために

～ 新学長ごあいさつ ～

信州大学長 中村 宗一郎



大学の存在意義(パーパス)の一つに「SDGsへの貢献」があります。ご存知のように、SDGsの基本理念はNo one will be left behind(誰ひとり取り残さない)です。真の共生社会を実現するためには、全ての人々が自立し、互いに助け合うことで「自分らしく」暮らし続けることのできる社会風土を涵養することが求められます。信州大学のミッション・ビジョン・バリューは、真の共生社会構築に資することであると認識しています。インクルージョンやダイバーシティは、そこに行く着くための重要な過程、手段、方法と考えられます。信州大学が未来へと続くサステナブルな組織になるよう、男女共同参画の試みをさらに前に推し進めます。

信州大学では平成23年12月に「信州大学男女共同参画宣言」を行い、男女共同参画社会の実現に努め、これを自らの社会的責務とすることを宣言しました。宣言と同時に、次のような「信州大学男女共同参画基本方針」を策定し、それらを実現するための「信州大学男女共同参画行動計画」を制定しました。

1. 男女共同参画推進体制の確立
2. 女性研究者の応募・採用拡大と育成の促進及び研究活動の支援
3. 大学運営に関する女性参画の推進
4. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進
5. 男女共同参画に関する教育・啓発活動と学内外の協力・連携

国は、男女共同参画社会基本法に基づき、第5次男女共同参画基本計画(令和2年12月15日閣議決定)を策定しました。その中で2020年代の可能な限り早期に指導的地位に占める女性の割合を少なくとも30%程度となるよう取組を進めるとし、大学教授等に占める女性の割合についても、2025年(令和7年)までに23%とすることを目指しています。信州大学では、この政策方針に配慮した女性教員比率向上のためのポジティブアクション(積極的改善措置)を実施しています。その結果、信州大学では教員に占める女性の割合は着実に増えてきましたが、私は、この流れをさらに前に進めていく所存です。

多様な性を生きる学生や教職員に寄り添うことも重要と考えます。わが国には性的マイノリティ(LGBTQ+)の方々を守る法律はまだなく、このような人たちの人権の保護が急がれます。そこで、多様な性についての理解を深め、習慣・常識を変え、理解者を増やすことを大学として考えます。具体的には、LGBTQ+の教員、職員、学生の就労・修学上の課題に適切に対応するためのガイドラインの作成を急ぎます。そして、全ての教員、職員、学生の方々にとって、本学が「学び甲斐があり、働き甲斐があり、互いの夢が叶う大学」となるよう、就労・修学上の環境整備、例えば多目的トイレや更衣室の増設等を積極的に進めたいと考えています。

中村学長
イクボス
温か(あったか)ボス
宣言



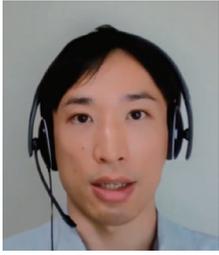
私は、本学の教職員が、子育てや介護等の家庭生活と仕事を両立していくことができるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した優しい職場環境を整備するとともに、組織の一人一人が個性や能力を発揮し、高い成果が上げられるよう、子育てや介護等の家庭生活と仕事との両立を支援していきます。また、教職員だけでなく、学生に対する意識啓発も行い、ワーク・ライフ・バランスを十分に意識して社会で活躍ができる人材を育成します。

【取組内容】

- ・子育てや介護が必要な教職員に優しい制度の構築や職場環境の整備に努めます。
- ・本学の教職員が個性や能力を最大限発揮できるよう、ワーク・ライフ・バランスを積極的に推進するとともに、自らも充実した仕事と私生活を送る「イクボス」となります。
- ・教職員や学生に対しワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発活動を積極的に推進します。

令和3年度男女共同参画推進研修を開催しました

令和3年11月5日（金）、Zoomによるオンライン形式で令和3年度男女共同参画推進研修を開催しました。



講師
株式会社ワーク・ライフ
バランス 滝沢雄太氏

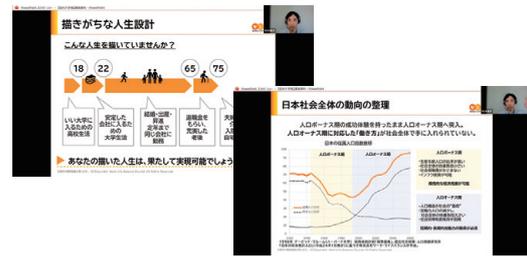
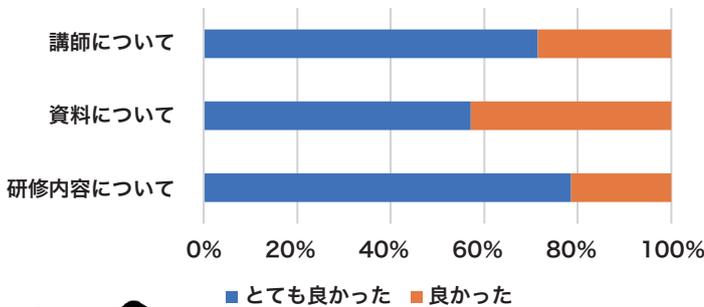
この研修は、主に40歳以下の仕事とライフイベントの両立を希望する職員を対象に行われ、大学職員にワークとライフの両立を考える機会を提供し、キャリア形成において同時に仕事以外の時間についても柔軟で多様なライフスタイルや明るい将来像を描くことができること、希望を持って主体的・長期的に就業するために必要な知識やスキルの習得、今自分にできることや必要なことは何かを見出すことを目的として実施し、14名の職員が参加しました。

講師には株式会社ワーク・ライフバランスの滝沢雄太氏をお招きし、「人生100年時代のキャリア形成を考える」をテーマに講義が行われたほか、ブレイクアウトルームを利用した3～4人でのグループワークも行われました。グループワークでは、初めて利用したという受講生も多く、最初は戸惑いもあったようですが、活発な意見交換ができた、率直な意見が聞けた、などの感想もあり、オンラインでも支障なく意見交換ができたようです。

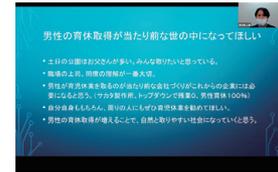
また本学の事例として、育児休業を7カ月間取得した理学部の上條昌樹主任に育児休業中の過ごし方や、男性が育児休業を取得する際に最も気になる、育児休業給付金等のことについてお話いただきました。またご自身の経験から、「男性の育児取得が当たり前な世の中になってほしい」というお話をいただき、実際に取得した職員のお話を聞いて、「男性で育休を取得された職員の方の声が聞けて良かった。育休や時短勤務について利用する方向で検討したいと思った。」などの感想が寄せられました。



研修の満足度



株式会社ワーク・ライフバランス滝沢雄太氏による講義の様子



理学部の上條主任には育休取得体験談をお話いただきました。

■研修を受講して参考になったこと、実務につなげていこうと思ったこと

- ・時間あたりの生産性を高めるため、より効率的に仕事をする。無駄な仕事をやめようと思った。
- ・時間の使い方、睡眠時間と効率性の関係など参考になった。
- ・フォルダ整理やペーパーレス化などの小さなことから始めてみようと思った。
- ・ライフとワークの好循環・シナジーをもたらすような業務改善が参考になった。具体的には、業務フローの見える化、見直しをしていこうと思った。
- ・日本の働き方の変化や、睡眠時間とパフォーマンスの関係、自分の働き方を考えていくことの大切さが勉強になりました。
- ・男性の育児休暇など制度はあるのに必要な方に知られていないということが今回よく分かりましたので、周知方法等も考えていきたいと思いました。
- ・なんとなく毎日を過ごすのではなく、近い将来（3年後くらい）にどうなっていたいか、ということを考えて行動してみようと思いました。また、忙しい毎日でも隙間時間で自分の時間を持ったり資格の勉強をしている方もいて、自分も少しの時間になにか好きなことに挑戦してみようかな、と感じました。

■オンライン研修について

- ・移動の必要がなく参加できてよかった（隔地学部、複数）
- ・魅力的な講師が多いので直接話を聞いてみたい、今回のような研修は対面式がよい（複数）
- ・ブレイクアウトルームを利用したグループワークは初体験でしたが、グループが3名の少人数ということもあり、やりにくさは感じませんでした。学生のオンライン授業はこんな感じなのかと、体験することができてよかったです。ただ、目は疲れました。

■今後受けてみたい研修の内容

- ・マネジメント層（特に主査層）についての研修を充実してほしい。
- ・大学全体でDXを取り組むためには底上げが必要で、一般職員を対象としたレベルでの情報セキュリティや、各ツール利用等についての研修をお願いしたい。
- ・普段話さない他部局の方と、仕事に関することについて話すだけでSDになると思うので、小さなテーマで気軽に参加できる短時間形式の研修（意見交換）の機会がもう少し増えるといいなと思います。
- ・信州大学の制度に関する勉強会。育休等知らない職員がいらっしまったので、勉強会とすると難しい印象もあるので、人事課に聞いてみようみたいな、気軽に話せる会がいいです。



今回は40歳以下の若手職員を主な対象として研修を実施しましたが、今後男女共同参画推進センターでは、管理職層や中堅層を対象にした男女共同参画推進研修を実施し、一層の働き方改革を推進していく予定です。

Work と Life の Balance の 実現に向けて「働き方」を変えてみませんか。

【仕事】

【生活】

【調和】



イクボス・温か(あったか)ボス宣言

令和3年10月1日に理事に就任された永松理事、向理事、高口理事、藤澤理事、附属図書館長に就任された東城図書館長にイクボス宣言をしていただきました。

理事(総括担当(プロボスト))、副学長 永松 裕希

- ・ 本学の教職員が仕事と生活の調和を実現し、子育てや介護等の家庭生活と仕事を両立していくことができるよう職場環境の整備に努めます。
- ・ 教職員や学生の多様性を大切にし、それぞれが自分の資質・能力を発揮できるよう、教職員や学生の意識啓発を推進します。
- ・ 自らも家庭生活と仕事の調和を大切にし、充実した生活を送る「イクボス」を目指します。

理事(研究、産学官・社会連携担当)、副学長 向 智里

イクボス10ヶ条に記された内容を十分に理解し、常に意識して行動すると共に、広く周囲の皆さんに周知して、普及活動に努めます。

理事(総務担当) 高口 努

ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、職員の皆さんが本来やる必要のない無駄な業務をできるだけ削減するため、常に業務等の本来の遂行目的に立ち返り、当該業務の必要性や無駄な作業等がないかどうかを検証し効率的な組織運営を行います。また、打合せ及び会議の時間の削減や意思決定の迅速化に努め、できる限りメールのやり取りで済むようにするとともに、業務時間外の職員の皆さんに対する業務等の発注は行いません。ペーパーレスにも取り組みます。

子育てを社会や職場全体で支援していくことは極めて重要であり、子育て中の職員には男女を問わず育児休業や、優先的に有給休暇を取得できるようにするとともに、全職員の皆様の有給休暇取得が取得しやすい職場の雰囲気の醸成に努めます。

これからは通勤時間にかかる時間もワーク・ライフ・バランスに有効に活用できるようにするため、職員の皆様のテレワークの推進も最大限できる環境整備にも取り組みます。

自分自身のワーク・ライフ・バランスも大切にすため、早期退庁にできる限り努めていきます。

理事(財務、環境施設担当) 藤澤 晃

- ・ ワーク・ライフ・バランスは質の高い仕事をするために必須の要素と考え、教職員の皆さんが働きやすい職場風土の醸成に努めます。
- ・ 教職員の子育てや介護といった事情を知るように努力し、その結果、思いやりのある職場環境を作るよう心がけます。

副学長(広報、学術情報担当)、附属図書館長 教授 東城 幸治

- ・ 子育てや介護など個々の職員の事情にもしっかりと配慮し、働きやすく、働きがいのある職場づくりに努めます。
- ・ 業務の効率化やチームワーク強化を図り、明るく楽しい雰囲気や休暇を取りやすい職場づくりを目指します。
- ・ 仕事と生活のいずれにおいても常に「夢」や「希望」を抱き、人生を楽しく豊かに送ることを心がけつづけます。

Pick Up INTERVIEW

女性活躍推進が急務と言われる中、活躍中の女性を身近に感じてもらうため、インタビュー形式で活躍中の女性を紹介するコーナーを新設しました(不定期連載)。第1回は今年度勤続20年の永年勤続表彰を受けた、人事課の石倉奈緒美にお話を伺いました。

活躍ファイル#1

総務部人事課人材育成グループ 石倉奈緒美 主査

Q1: 勤続20年の表彰を受けてのお気持ちは?

この20年は、「あつという間」ではなく、特に子供が小さい時は、「きつい」と思ったことの方が沢山ありましたが、ここまで続けてくることができたのは周りの方に恵まれ、支えて頂いたからと感謝の気持ちでいっぱいです。

Q2: 「きつい」と感じるような時期はどのように乗り越えられたのでしょうか?

まず、家族や上司に常に相談していました。また、帰宅後は疲れて何もできないので、毎朝5時に起きて夕飯の準備をしてから出勤するなど、自分なりの時間の使い方を工夫するようにしました。それでも体力的、精神的に辛い時期もあり、そんな時は夫によく話を聞いてもらいました(大変さアピール)。慌ただしい生活の中、共働きならではの家事の役割分担が自然と決まり、平日は夫が、週末は自分がお風呂掃除をするなどの協力体制が今でも続いています。最近では子供達も大きくなり、自分の時間を作れるようになってきて、気分転換しています。

Q3: 「周りに気を遣ってしまっ」など、育児休業の取りにくさはありましたか? また、常勤職員として続けていくかどうか迷いはなかったですか?

当時の上司が女性で、ご自身も育休を取った経験のある方だったので相談もしやすく、取りにくさは感じませんでした。1人目の育休復帰から1年経たずに2人目の産前休暇に入ることになり相談した時も、「石倉さんの年代がちゃんと育休を取らないと次の人が取れなくなるし、今はそういう時期だから全然気にせず休んでいいんだよ。」と言って下さり、とても心強かったです。その時は常勤職員として続けることに迷いはありませんでした。ただ、2人目の育児休業からの復帰直後や、児童センターと保育園両方の迎えがあった時期、保育園の迎えが最後になるときが続いた時期などは、時間に追われる生活に、子供達に申し訳ないと思うようになり、このまま仕事を続けていよいか不安になりました。それでも、保育園や児童センターでは手厚くお世話をしていただき、結果的には子供たちは逞しく育ってくれ、周囲の方々に助けていただき、本当に感謝しています。



長男4年生の時に初めてファミリーマラソンに参加。以降6年生まで毎年参加。



子供たちの頑張っている姿にいつも力をもらっています。



Q4: これまで仕事を続けてきて良かったと感じることは何ですか?

仕事は年数を重ねるごとにキャリアを積むことができるので、大変なことも多いですが、やりがいを感じます。また、仕事を続けていることで、様々な人との出会いもあり、仕事の話で刺激を受けたり、仕事の合間に同僚と子育てについて話す時間が楽しかったりします。今でもそうですが、悩みなどを共有することで、大変なのは自分だけじゃない、と励まされています。

Q5: 最後に、これからライフイベントを迎える皆さんに向けてメッセージがあればお願いします。

ライフイベントを迎える時に、「こんな相談したらどう思われるかな…」などと心配せずに、遠慮なく上司などに相談してください。最近は男性の育児休業者も増えてきています。休暇や休業制度を十分に利用し、大変な時期はありますが、自分なりのワークとライフのバランスを探りながら、仕事を続けることを考えている方は、ぜひ続けて欲しいです。

NEWS and TOPICS

■「LGBT等ガイドライン(仮)制定のための現状アンケート調査」にご協力いただきありがとうございました

11月に実施したアンケートでは、多くの学生・教職員にご協力をいただき、ありがとうございました。いただいた意見を参考に、今後は、教育研究評議会のもとに設置されたワーキンググループにて、ガイドラインの検討を進めて参ります。

■「育児・介護のためのガイドブック」、「仕事と介護の両立支援HandBook」配信中

育児や介護期などのライフイベント期間中に利用できる制度をまとめた「育児・介護のためのガイドブック」と、家族の介護が必要になる前の備えとして読む「仕事と介護の両立支援HandBook」を男女共同参画推進センターのホームページに掲載しています。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/article/ikujikaigobooks202103.pdf>

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/concerned/sigoto-kaigo-sien202103.pdf> (学内限定)



■【予告】令和4年度(4-9月期)研究補助者制度利用者募集を令和4年1月14日に開始します

令和4年1月14日より、令和4年度(4-9月期)研究補助者制度利用者の募集を開始します。詳細は男女共同参画推進センターのホームページでお知らせいたします。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/initiatives/kenkyujojo.php>



■クリスマス会が開催されました

毎年恒例のクリスマス会。今年も人事課からサンタさんが子どもたちにプレゼントを届けに行きました。何が起こっているかわかっていない赤ちゃん、恐怖でおびえる(?)子、サンタさんとお話したくてうずうずしている子、子どもたちのいろんな反応を見ることができて、とても楽しいひと時でした。最後はプレゼントをもらって大満足な子どもたちでした。



■令和4年4月より保育委託業者が変わります

令和4年4月1日より保育委託業者が株式会社アイگرانに変わります。これまでの基本的な保育方針、枠組みは変更せずに運営いただく予定です。今後とも保育の質の維持向上に努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

株式会社アイگرانの会社情報はこちらからご覧いただけます。

<https://aigran.co.jp/>



このコラムは、本学で子育てをしながらお仕事されている教職員の方に、日頃の育児の様子をご紹介いただくコーナーです。

我が家は、8歳の長女、4歳の長男、夫の4人家族です。

2人とも、産休育休、時短制度を利用し、職場の方々や家族の協力を得ながら何とか育児と仕事の両立をしてきました。

小さいうちは手はかかりますが、時短制度が使えるので、帰宅時間が早く、何とかやりくり出来ていました。時短制度が終わってしまうと、帰宅時間も遅くなり、食事、風呂の準備に加え、小学生になると宿題の確認などもあり、帰ってからのやる事の多さに、疲労困憊の日々です。そんな中でも思い切って副師長に昇進し、大変さは増していますが、いつもニコニコ「ママ～おかえり！ギュー～して！！」と出迎えてくれる我が子に力をもらっています。



いちむら みか
市村 美香 副看護師長

医学部附属病院
南5階病棟



家族構成

夫、長女(8歳)、長男(4歳)

あなたのリラックス方法は？

子供と変顔対決、録画したドラマを寝かしつけた後に観ること

たまにみんなの休みが一緒になると、公園に出かけたり、家庭菜園をしたり、温泉に行ったり。そんなささやかな時間に癒やしと安らぎを感じています。

これからも、家族皆が元気で楽しく過ごせる時間を作っていきたいと思います。



次回はコチラ！

上地 由美 助産師・不妊症看護認定看護師
医学部附属病院 看護部



お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進センター (SuFRE)

スフレ

信州大学 スフレ

検索

〒390-8621 松本市旭 3-1-1
内線 811-2150, 811-2140
TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

教育学部分室
〒380-8544
長野市西長野 6-0
内線 831-4018

工学部分室
〒380-8533
長野市若里 4-17-1
内線 821-5693

農学部分室
〒399-4598
上伊那郡南箕輪村 8304
内線 851-3120

繊維学部分室
〒386-8567
上田市常田 3-15-1
内線 841-5031

バックナンバーはこちらからご覧いただけます。 ▶ <https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/article/sufre/>